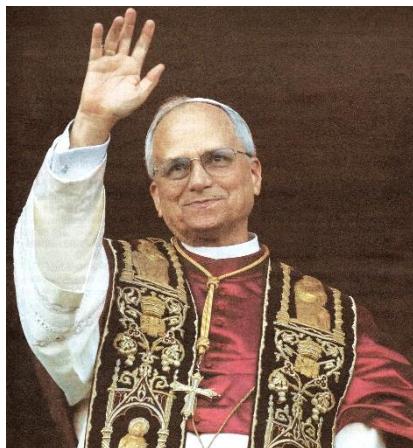


牧師所感： レオ14世 第267ローマ教皇を祝す — 貧民の味方に、献身を使命に —

冒頭の レオ14世 第267代 ローマ教皇は、2025年 ローマ教皇選挙（コンクラーヴェ）において、4回目の投票で教皇にされた。（略）アメリカ合衆国出身だが、2015年にペルーの国籍も取得しており、アメリカ合衆国・北米出身者そしてペルー市民としては初めての教皇である。聖アウグスチノ修道会（アウグスチノ会）出身としても初めての教皇となった。（以上の記事は ウィキペディアより）



さて筆者は、レオ14世 ローマ教皇選出を祝す。去る4月21日召天したフランシスコ教皇の貧民に寄り、抑圧されている人々の味方となって、聖職務を果された教皇の跡を継ぐ教皇であられることを信じる。

とりわけ今の教皇は、「ペルー在勤の時にベネズエラからの難民を支援しており、今のトランプ政権の移民政策を憂慮している」と。

また、「2024年 バチカンニュースのインタビューにおいて『司教は、自分の王国に君臨する小さな王子のように振る舞うのではなく、謙虚に、仕える人々に寄り添い、共に歩み、共に苦しむようにと、本来は召されているのです』と述べられた」と。

以上で見るように、世界のある権力者は、今の世界をご自分の治める王国のように振る舞っている。他方或る国の大統領は、ご自分の民の為に、権力を持たない貧民の一人のように民に仕える。（ウルグアイ元大統領）

さてレオ14世教皇はこの世界は、人が全能者ではなく、神が全能者であることを暗に示したと思われる。

さて、今韓国では来る6月3日の大統領選挙において、真に神を畏（恐）れ、民を愛する大統領が選ばれることを祈って止まない。

おわりに、全世界で1日も早く戦争が止み、平和が訪れることを祈る。神よ、この地球に平和をもたらして下さい。アーメン。